

きずな

ひょうご
人権ジャーナル

2026

7・8
月号



無自覚な加害者にならないで!

画面の向こうの 「心」を 想像してみよう

01 ききあう対話がひらくもの ————— P2
哲学者・作家 永井 玲衣さん

02 AI時代の大人が知っておきたいこと ——— P3
兵庫県立大学環境人間学部教授 竹内 和雄さん

03 私とわたしが語る ————— P4-7
「部落フェミニズム」
対談:
関西大学人権問題研究室委嘱研究員 宮前 千雅子さん
自立生活センターリングリング障害者スタッフ 石地 かおるさん

04 部落差別(同和問題)の経緯と ————— P8・9
解消に向けた取組
兵庫県県民生活部総務課人権推進室

県内各市町の人権啓発 #02 ————— P10
人権が尊重され 一人一人が
大切にされる心豊かなまちをめざして
— 三木市の取組 —
三木市人権推進課

ふれあいサロン ————— P11

情報ぶらざ ————— P12



ききあう対話が ひらくもの

✓ TO DO 相手の言葉をきくことを意識して対話する。



対話って何だろう

SNSで対話は可能かとよく問われます。AIと対話ができるのかともよく訊かれます。たしかにやりとりは生じていますが、それを「対話」と呼んでいいのか、わたしはいつも躊躇してしまいます。

わたしは「対話」は「ききあうこと」だと考えています。それは、完璧な理解を目指すことというよりは、**あなたの言葉を、考えを、もっときこうと試みること**です。そもそも「声がきかれる」ということは、人間の尊厳にかかわることです。それなのに、多くのひとたちは「自分の声がきかれていない」という思いを抱えています。たくさんのひとにそう思わせる社会に、わたしたちは生きているとも言えます。

非人間化に抗う

よくきこうとすると、意見に賛成であろうが反対であろうが、目の前にあなたが「いる」ということを否定することができなくなります。あなたがここにいる。わたしとは異なり、でもわたしとどこかで必ず重なる他者としてのあなたが、ここにいるのだ、と感じられます。一方で、わたしたちは様々な意味で、互いを非人間化する社会にいます。一人の人間をただ

の役割でしか見ることができなかったり、レッテルを貼って、奥行きを確かめようとしなかったりします。わたしたちはもっときかなければならない。**きくことは、あなたを非人間化すること、そして自分自身も非人間化してしまうことに抗うこと**だとわたしは思います。

「にんげんをかえせ」

人間であり、たくましかったり、残酷だったり、美しかったり、ままならなかったりします。それなのに、それを覆い隠そうとしたり、なぜだかついつい愚かにも忘れてしまったりします。**人間が人間に暴力をふるうことは簡単ではありません。だからわたしたちは、どちらかを非人間化する**のです。

世界的ロック・バンドU2のボーカルであるボノが、あるライブでアメリカのすさまじい宇宙開発の発展に触れた上で、当時のブッシュ米大統領とブレア英首相、そして世界の指導者たちに求めた言葉を思い出します。「Not put a man on the moon, more like put mankind back on earth. (人間を月に送るのではなく、人間を地球にかえせ)」。峠三吉は「にんげんをかえせ」と自身の原爆体験を通して詩を書きました。

いまこの社会はAIを「人間らし

く」するためにテクノロジーを発展させています。もちろんそれを否定するわけではありませんが、それ以前に**わたしたちは、人間を人間にかえさなければいけません。対話はその手立てのひとつになるはず**です。

話してくれたのは...

哲学者・作家

永井 玲衣さん

人びとと考えあい、ききあう場を各地でひらく。問いを深める哲学対話や、政治や社会について語り出してみる「おずおずダイアログ」、せんそうについて表現を通して対話する写真家・八木咲とのユニット「せんそうってプロジェクト」、Gotch主催のムーブメントD2021などでも活動。著書に『水中の哲学者たち』(晶文社)『世界の適切な保存』(講談社)『さみしくてごめん』(大和書房)『これがそうなのか』(集英社)。第17回「わたくし、つまりNobody賞」受賞。詩と植物園と念入りな散歩が好き。



著作本紹介



『これがそうなのか』
2025年11月
集英社
1,980円(税込)



『さみしくてごめん』
2025年6月
大和書房
1,760円(税込)



『世界の適切な保存』
2024年7月
講談社
1,870円(税込)



『水中の哲学者たち』
2021年9月
晶文社
1,760円(税込)

AI時代の大人が 知っておきたいこと


✓ TO DO

相手をまずは肯定することを念頭に置いて会話をしてみる。



大学生に聞きました

この文章を執筆するにあたり、授業後の女子大学生86人を対象に「恋愛相談を誰に?」というアンケート調査を実施しました。

- | | |
|-----------|----------|
| 1位 友達 | 3位 きょうだい |
| 2位 チャッピー | 4位 保護者 |
| (チャットGPT) | 5位 先生 |

対象 女子大学生86人

友達が1位で、先生が最下位という結果は既視感がありますが、2位「チャッピー」には驚きました。しかも、友達と僅差でした。「チャッピー」、わかりますか? 生成AI「チャットGPT」の短縮形です。教室に残ってくれた数人に詳しく聞かせてもらいました。こんな感じです。

「質問したら何でも答えてくれるのでとても便利」「なんでも否定せずに答えてくれるので、安心して相談できます」…。こういう回答は想定内でしたが、「うちのチャッピーは少しおバカだからよく間違えます」という回答には少なからず驚きました。

「うちのチャッピー」という表現を多くの学生がしていました。**生成AIに親しみを感じている**ことがよくわかりました。さらに、時々間違えることについても、妙な表現ですが、愛おしさまで感じているようでした。**常に自分を肯定してくれるので安心し**

て相談できる」と言います。以下、最後まで教室に残ってくれた女子大学生2人と私の会話です。

竹内: 安心できるってどういうこと?

A子: 安心できるというか、絶対否定されない

B子: まず受け止めてくれるというか…

A子: 私のことをよくわかってくれてるし

竹内: 生身の人間より?

A子: 生身は、友達でもやっぱり気を遣う…

B子: 彼氏の相談したら、『自慢』ととられるかも、とか…

竹内: AIが微妙な女心、わかるとは思えないけど…

A子: それがわかってくれるの!

B子: 何だかなあってときもあるけどね

A子: 背中を押されたいなと思うときは押してくれる

竹内: 親や先生じゃだめなの?

A子: そういうわけじゃないけど…

B子: 大人って、お説教から入るでしょ?

AI時代の大人として

生成AIに恋愛経験はありません。恋愛の機微がわかるわけではもちろんないはずですが。どういうからくりで、生成AIが恋愛相談に乗れるのか、私は詳らかではありませんが、膨大なデータから類推するか、前後から相談者の好みの回答を推察するか、でしょうか。

私も「チャッピー」に、「生成AIが肯定的な回答をする理由を50字程度で教えてください」と聞いてみました。「人間の満足度を優先し、不快な

反応を避けつつ期待に応えるよう強化学習のアルゴリズムが働くためです」私は長く「教師」です。満足度ばかり優先するわけにはいきませんが、優先しないために相談相手に選ばれないのは本意ではありません。さらに「生成AIに教師が学ぶべきことは?」と聞くと、「**生徒を否定せず、まず肯定し、心理的安全性を守りながら対話を深める『受容』のアルゴリズムを学ぶべきです**」。

これらは、私が教員志望の学生に求めている姿勢そのものです。…教員でなくても、大人として子どもたちと接するとき…、さらに人と接するときに心がけるべきことです。

最後に「大人として、心がけること」を聞いてみました。「否定せず『なるほど』と受け止める『イエス・アンド』の手法を使い、心理的安全性を保つのがコツです」…私のチャッピーはおバカではありませんでした。

話してくれたのは…

兵庫県立大学
環境人間学部
教授

竹内 和雄さん



公立中学校で20年生徒指導主事等を担当(途中小学校兼務)。市教委指導主事を経て2012年より大学勤務。2023年から現職。生徒指導を専門とし、いじめ、不登校、ネット問題、生徒会活動等を研究している。文部科学省有識者会議座長など、子どもとネット問題についての委員を歴任。生徒指導提要(改訂版)執筆協力者。

私とわたしが語る 「部落フェミニズム」

一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所

✓ TO DO 自分のペースが、誰かに無理をさせていないか振り返ってみる



はじめに(自己紹介)

石地 私は普段は、「自立生活センターリングリング」という障害者の権利擁護活動をしている団体で色々なことをやっています。出身地は兵庫県の西の方で、母が部落出身、父は非部落です。障害名は脊髄性筋萎縮症(SMA)です。生まれたときから24時間介助が必要で、車いすに乗っています。30歳のときに障害者団体を頼って、神戸で自立生活を始めました。友人と2人で24時間の介助者を探して、大学や駅前でビラまきをするとか、そういうことをして、介助者をつないで生きてきました。

宮前 両親は兵庫県の被差別部落の出身でしたが、私は大阪の部落ではないところでずっと暮らしてきました。私の日々の仕事は大学の非常勤講師で、部落問題などを講義しています。講義の際は、必ず自分は部落出身だと言います。いわゆる「寝た子を起すな」※1という発言が出たら、きっちり介入します。そうすると「なんで先生はそんなに部落のことをひけらかすんですか」「それは国から助成金もらっているからですか」といった言葉が出てくることがあります。**私に飛んでくるこういったヘイトは単なる部落差別だとは、私には思えません。それは私が女だから。ミックスのものが私には飛んできている。**

だいたい言ってくるのは男子学生です。100年前の部落女性も学校で男の子から、いじめに遭っていたり、衆人の目の前で賤称語を投げかけられたりしていますが、そういう経験と、やはりつながっていると思います。私はこうした部落女性としての経験を歴史から、石地さんは石地さんの立場から、それぞれのメンバーがそれぞれの経験から紡いだのがこの1冊です。

石地 この本を出して、つい最近SNSでヘイトされました。私の顔写真をどこからかコピーして、あることないことを書いている。宮前さんがさっきおっしゃったように、私が障害者で、女性だから、舐めてかかっていると思っています。



無自覚だった権力性

石地 この本を作るために、1年半くらい、(著者たちと)読み合わせなどを重ねました。最初のほうはオンラインだったのですが、ある日、合宿をしようというメールが全員に送られてきました。どこに行くのか、泊ま

るところにはどんな設備があるのか、そういうことを私独りで抱え込まないといけないのかなと思いました。健常者のペースに私が合わせないといけないような感じが、私にとっては重かったんですね。それで、どこでも皆さんと同じペースで行けるわけではないということや、泊まるとなったら介助者の同行が必要となり、その手配も早い段階から行わなければならないことなどをメールに書きました。うまく伝わらないのではないか、人間関係が壊れるのではないかと不安になりましたが、送信しました。**今まで私がマジョリティに近づいていくという形で、私は自分の問題を解決してきました。しかしこの本の趣旨は、「不可視化された存在を可視化させる」ということで、そういう活動をしようとしているのだから、私は私のままでいいということ、それをまずは皆さんに知ってほしい**と言いました。そして、何をするにも時間がかかるので、そこも私に合わせてほしいと伝えて、合宿はとても楽しく過ごせました。マイノリティがマジョリティに一生懸命近づくのではなく、**マジョリティがマイノリティに近づいていくようにすれば、差別をなくす方向へ進む**と思います。すごく小さいコミュニティのことですが、それを実践できたことは本当によかったなと思います。

宮前 自らの(マジョリティとして

2025年3月、被差別部落にルーツをもつ9名の女性たちが、それぞれの活動や研究、経験のなかから部落を語り直す『部落フェミニズム』（エトセトラブックス）という本が刊行された。ひょうご部落解放・人権研究所2025年度第2回人権セミナー（2025年6月14日／のじぎく会館）では、この本の執筆者で兵庫県に縁の深い方の中から、宮前千雅子さん（関西大学人権問題研究室委嘱研究員）、石地かおるさん（自立生活センターリングリング障害者スタッフ）の2名をお招きして、対談をしていただいた。

『部落フェミニズム』
熊本理抄【編著】
藤岡美恵子/宮前千雅子
福岡ともみ/石地かおる
のびこ/瀬戸徐映里奈
坂東希/川崎那恵【著】
2025年3月
エトセトラブックス
2,640円(税込)



の)権力性に全く無自覚だったことをすごく反省しました。石地さんがこんな風にきっちり言ってくれることで、この9名の仲間の関係性もまた違ったものになっていき、こういう本ができたと思っています。

部落問題との出会い

石地 母と父は一緒に商売をしていました。母の妹、叔母が同じ場所で魚屋を出していました。部落出身であることを、母は一生懸命隠していました。いつもおしゃれをして、新聞を読んだりして。ちゃんと教育を受けられていないので、周囲から馬鹿にされないための防衛だったと思います。叔母はわりと大きくなるまで部落の中にいたので、部落に昔からの知り合いがいます。部落からのお客さんと昔の話をしたり、そのお店で部落の食べ物を作っていたり。同じ場所で商売をしているので、母にとってはアウティングになっていました。母は叔母が部落の人と話し始めると隠れるんですよ。私はなんで隠すんだろうと思っていました。

宮前 私もけっこう似ています。アブラカスという食べ物があります。牛の腸をぶつ切りして、大きな鍋で炊くと、固形物と油に分かれます。その固形物がアブラカスです。母の実家では牛を飼っていて村はずれの屠場で捌いてお肉屋さんに出すという仕事

をしていたので、新鮮な内臓が手に入りました。それで比較的良好く食べていたと思います。出汁が出ておいしいんですよ。母は実家で作ったものを、いっぱい持って帰ってきて、家でも食べていました。でも、「こんな食べてるって絶対言うたらあかん」と。私は小さいときは、おじいちゃんおばあちゃんにまつわることだけ隠せと言われていたと思っていて、それが部落差別に関わることだとは分かっていませんでした。**親は「隠し事するな」「嘘つくな」と子どもに言うのに、そこだけ「隠せ」とか「本当のことを言うな」と言うので、すごく混乱しました。**

石地 中学生のとき、母が私の机の前に座って「大事な話があるんや」と。それで「お母さんは部落やで。あんたこんな聞いてショックやろ」って言うんですよ。それで、「私は誰にもばれへんようにずっとそれを隠してきたんや。何でかって言うたらな、あんたのためやで。もし、お母さんが生まれたところを聞かれることがあっても、絶対言うたらあかんで。もし口滑らしたら、あんたも差別されるんやで」って、脅してきたんですね。そのときの母は差別に立ち向かえず、おどおどして不安そうで、大嫌いになりました。私は思わず、「そんな差別する方が悪いねん」と母に言ったんですよ。そしたら怒るんです。私もイライラしました。

宮前 大学に入ってすぐのころ、母は「うちは血筋が違うので親戚の仕事は隠さなあかん」と言いました。それは当然みんな違うわけですが、「みんな違ってみんな良い」というような、そういう「違う」でなくて、「うちは悪い血筋だ」と思ってしまったのが、母の声色とか顔色からありありと分かりました。私は石地さんのように「差別する方が悪いんや」とは言えずに、ひたすらショックを受けることしかできなかった。**「血筋が違う」という言い方でしか言えなかった母を、そのときは軽蔑したり、嫌いになりました。母に対して一筋縄ではいかなのような複雑な思いを、ねじれた思いを抱えていってしまう契機になった経験だ**と思います。

母親との関係

宮前 やはりフェミニズムでも母というのは1つの大きなテーマとなっています。

石地 母は障害者差別を自分の中に内面化しているので、私は母にとっては失敗作でした。私のことを不憫に思ったり、時には攻撃的な言葉で罵倒したりして来たり。自分のイライラをぶつければよかったんだと思います。**私は母を許せないという思いを長年抱えてきました。**ピアカウンセリングで母との関係について長時間話を聞いてもらい、そのプ

私とわたしが語る 「部落フェミニズム」

一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所

ロセスで、私は母とそっくりだと思いました。母の不安感や諦め、なかなか人を信頼しないところなど、そういうところが生き写しで、思考パターンもそっくりで。そのカウンセリングを10年ぐらいやっていて、やっとここまで行きついた。**母のことを許すことが自身を解放することだと思っています。**

宮前 私は母の言った「血筋が違う」という言葉がずっと引っかかっていました。その後、リバティおおさか（大阪人権博物館）に勤めて、色んなマイノリティの課題に関わるようになってから、**母は「血筋が違う」という言葉を自分で積極的に獲得したのでなく、差別する側が母に言ってきただけということが分かっていきました。差別されているマイノリティたちは、マジョリティ側がかけてきた言葉でしか語る言葉をもたない**ということです。主な働き手だった母の教育は全然重要視されておらず、学校にきっちり行き切れていませんでした。**学ぶことにもアクセスできていないことが、母にそういうことを言わせ**たとも思います。

また、私に部落出身であることを話したのは、父でなく母でした。やはりそこには産む性としての脅迫的な自意識があったのではないかと、私自身は思っています。石地さんのお母さんが石地さんを「失敗作」みたいに言うことも根底でつながっている気がしています。

『部落フェミニズム』で、福岡ともみさん（性暴力被害者支援センター・ひょうご理事）が「世代間伝達トラウマ」という概念を出してくださっています。福岡さんが引用したオーストラリアの精神科医オイゲン・コウの文章をそのまま読むと、「ある世代が処理できていないことは、次世代に受け渡され／投影され、そしてさらに次世代へと受け渡されます」（100頁）。**心の傷みが親の世代に残っていると、それが子の世代に伝わっていく**ということが書かれています。私も100年前の部落女性の経験を、歴史的トラウマとか、レイシャルトラウマとかそんな概念でこの本に書いていて、やっぱり**部落女性たちがずっと経験してきた不安感や恐怖感は個人的なものではなくて、集団的に歴史的にずっと継続している**ということを書いています。そう考えると、石地さんのお母さんのことや私の母のことを少し理解できるようになるかなと、そんな感じはしますよね。

石地 しますね、全部受け入れるのは難しいですけど。やはり祖母から母に、母から私に受け継がれたと思っています。それを私の代で断ち切りたい。

宮前 私も「嫌い」という一言だけではなく、**母をその時代を生きた1人の部落女性として見る**ことができるようになってきました。

石地 離れて客観的に見ないと、母

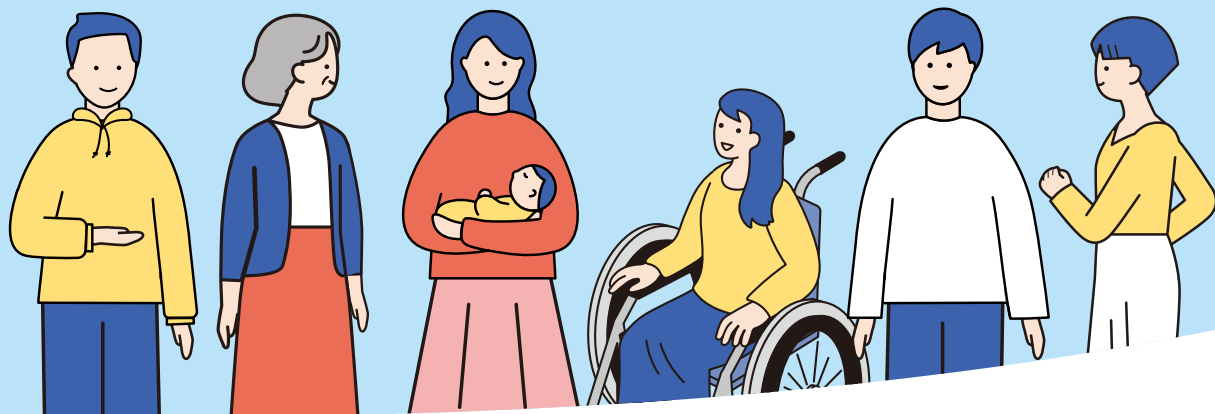
のことを理解するのは難しいです。嫌いだけど本当は好きなんですよ。

宮前 そうなんですよ。

石地 本当は仲良くなりたい。この本の中に識字^{※2}のことがたくさん出てきます。母が若い時に識字学級に出会っていたら、また違う考え方を知って、もう少し自分を解放できたのではないかと思います。この本を読んですごそう思って、ちょっと涙が出てくるというか、そういう感じになりました。

分断されるマイノリティ

石地 障害者運動の根源は、優生思想を手放すということだと思っています。「障害があるから生きていく価値がない」とか、「あんな体にはなりたくない」とかいうのは、差別そのもの、優生思想です。それは津久井やまゆり園事件^{※3}も、それから尊厳死も同じです。また、女性が出生前診断をやって障害がある子どもだと分かると99%が堕胎されてしまうことも同じで、このことと女性に対する抑圧というのは深く絡み合っています。**女性が「産む産まないは私の権利」と主張するときに、「障害があると分かった場合、産む産まないはあなたが決めるんですか」という思いが私の中に強くあります。**私は女性運動とも一緒に闘ってきたいという思いがありますが、その「権利」の裏で障害者は99%殺されて



いるわけです。それに対して自分の中で矛盾してしまう気持ちがすごく強くなります。それで、**障害を持つ子どもを中絶することについて当事者が声を上げていこうと、「神経筋疾患ネットワーク」というグループを作りました。**そこでも女性の問題とすごく絡まっているということを、みんなでよく話し合っていますが、未だに答えが出せないでいます。**女性が自分の権利を国家や社会に突きつけていくこと、障害者が自分は失敗作ではないということを国家や社会に知らしめていくことは、どちらも大切**です。ですから「私の体だから私が決める」というような端的な言い方ではなく、女性運動のほうも障害者と手を組むように動いてほしいという気持ちがすごくあります。

宮前 権利として中絶を行使するのだったら、それはあくまで自分の体のこと、自分の状態を理由にすべきで、他者であるはずの子どもの障害の有無ということは、中絶する権利の中に入っていないと私は思っています。**権利の行使が許されるのは、他者の人**

権を侵害しない範囲までです。

石地 やっぱりこの問題はちゃんと話し合っていくべきことであり、みんなで対等な立場で議論していく必要があります。

今後について

宮前 本を出してこれで終わりではなくて、スタートだと思っています。

石地 介助者を24時間入れた自立生活を始めて今年で28年になります。**これまで部落出身であることを介助者に言ってきましたが、この本を作っているという会話の中で、自分のルーツなどを話してくれる人もいました。**これからは「こういう本を出したんだよ」と言っていきたい。そうすることで介助者一人ひとりが自身のマイノリティ性について気付いて、障害者のことも理解できるようになればと期待しています。生活そのものが運動なんです。これは私が言い始めたことではなく、私の上の世代の「青い芝の会」※4の人たちが言っていたことです。

宮前 私は部落の外にあえて暮らす、そこで必要があればカミングアウトするというのが、大げさに言ったら自分のできる部落解放運動だと思ってこれまでもやってきました。そして、部落の外で時には部落問題も話せるようなネットワークを作りたいという思いを持って活動してきて、まだ道半ばです。これからもいろんな方法で世の中に訴えていきたいと思っています。どうもありがとうございました。

石地 ありがとうございました。

※1 寝た子を起こすな
部落問題を知らない人にわざわざ教える必要はなく、何もしなければそのうち差別はなくなるという考え方。

※2 識字
被差別部落には貧困や差別の結果、教育を十分に受けられず文字の読み書きができない人が多くいた。部落解放運動のなかで1960年代以降「差別によって奪われた文字を奪い返す」という識字運動が盛んになり、各地に識字学級がつくられた。

※3 津久井やまゆり園事件
2016年7月、元職員が入所していた障害者19名を刺殺、入所者・職員26名に重軽傷を負わせた。

※4 青い芝の会
1957年に設立された脳性麻痺者の当事者の会。

話してくれたのは

自立生活センターリングリング障害者スタッフ

石地 かおるさん

1967年生まれ、1歳半でSMA(脊髄性筋萎縮症)と診断され、24時間介助を必要とする重度障害者。1998年に他人介助を入れて自立生活をスタート。2002年、「自立生活センターリングリング」を設立。ピアカウンセラーとして障害者の権利擁護活動を続けている。2016年、やまゆり園での障害者殺傷事件を受けて「リメンバー 7.26 神戸アクション」を立ち上げ、優生思想に抵抗している。2025年、部落にルーツを持つ女性9人で「部落フェミニズム」(エトセトラブックス)を出版。



関西大学人権問題研究室委嘱研究員

宮前 千雅子さん

関西の複数の大学で非常勤講師もつとめる。部落女性の立ち上げた婦人水平社を中心に研究中。おもな著書に『基礎ゼミジェンダースタディーズ』(世界思想社、2025年)、『部落フェミニズム』(エトセトラブックス、2025年)(いずれも共著)がある。



部落差別(同和問題)の経緯と 解消に向けた取組

－兵庫県県民生活部総務課人権推進室－

✓ TO DO インターネットの情報に惑わされず、自分で正しい情報を確認する。

部落差別(同和問題)とは

部落差別(同和問題)とは、**同和地区・被差別部落などと呼ばれる地域の出身であることやそこに居住していることで、結婚・就職差別や、日常生活の中で差別を受けるなど日本固有の人権問題**です。日本社会の歴史的過程で形づくられた身分差別により、長い間、衣食住にわたる厳しい規制や差別を受けていましたが、1871(明治4)年に発布された、いわゆる「解放令」により身分制度は廃止されました。しかし現実には差別は無くならず、国民の一部が経済・社会・文化的に低い状態におかれる状況が長く続きました。

同和対策の経緯

戦後、日本国憲法が施行され「基本的人権の尊重」「法の下での平等」の理念が浸透する一方、経済成長による地域内外の格差が拡大したことなどから、この問題の解決を求める声が高まりました。1965(昭和40)年に同和対策審議会答申で、同和問題の解決は「国の責務であり、同時に国民的課題」として、生活環境の整備や福祉、教育、人権擁護など総合的な対策が取られるべきと提言され、この答申を受けて、1969(昭和44)年に「同和対策事業特別措置法」が施行されました。

以降、**国と地方公共団体が一体となつて特別対策に取り組んだ結果、住環境を中心に格差は大きく改善され、2002(平成14)年3月に特別対策は終了し、一般対策の中で取り組んでいくこととされました。**

部落差別解消推進法の施行

2016(平成28)年12月16日に、「部落差別の解消の推進に関する法律」(部落差別解消推進法)が施行されました。同法は、現在もなお部落差別が存在すること、情報化の進展に伴って部落差別に関する状況の変化が生じていることを踏まえ、部落差別は許されないものであるとの認識の下、国及び地方公共団体が協力して、部落差別の解消に向け、地域の実情に応じた部落差別の解消に関

する施策に一層取り組み、**相談体制の充実、教育・啓発等を実施して、部落差別のない社会を実現すること**を目的としています。➡図1

兵庫県の取組

兵庫県では市町とともに、部落差別(同和問題)をはじめあらゆる差別のない共生社会の実現をめざして「人権文化をすすめる県民運動」を推進しています。部落差別(同和問題)への**正しい認識と理解を深めるための教育・啓発**を隣保館等関係機関と連携して取り組むとともに、身元調査を未然に防ぐため、**第三者が戸籍謄本等**を取得した時に市町が**本人に知らせる「本人通知制度」の普及を支援**しています。また、インターネットによる人権侵害については、



図1 部落差別解消啓発ポスター



図2 弁護士相談窓口チラシ



令和8年1月から施行した「インターネット上の誹謗中傷、差別等による人権侵害の防止に関する条例」に基づき、**ネットリテラシーの向上を図る啓発や教育の実施、専門職員や弁護士による相談体制の整備**を行っています。さらに、部落差別（同和問題）等の差別的な投稿への対応として、インターネット上の書き込みのモニタリングを行い、**悪質な投稿については県からプラットフォーム事業者等への削除要請や、必要に応じて投稿者への行政指導を行う**など、差別の助長・誘発の防止に取り組んでいます。なお、インターネット上の差別的投稿のモニタリングについては、現在、県内すべての市町が実施しており、県と市町が協力して差別の抑止を図っています。➡図2

部落差別の解消を阻む 様々な事例

インターネットの悪用などによる 差別表現

近年、インターネット上で、差別的取扱いを助長・誘発する目的で特定の地域を同和地区であると指摘する事案や同和地区を記載しているとする書籍を販売しようとするなどの悪質な行為が発生しています。これらは、ネットの匿名性を悪用して、**誤った認識や差別意識を助長する、表現の自由を逸脱した許されない行為**です。

身元調査・土地差別問題等

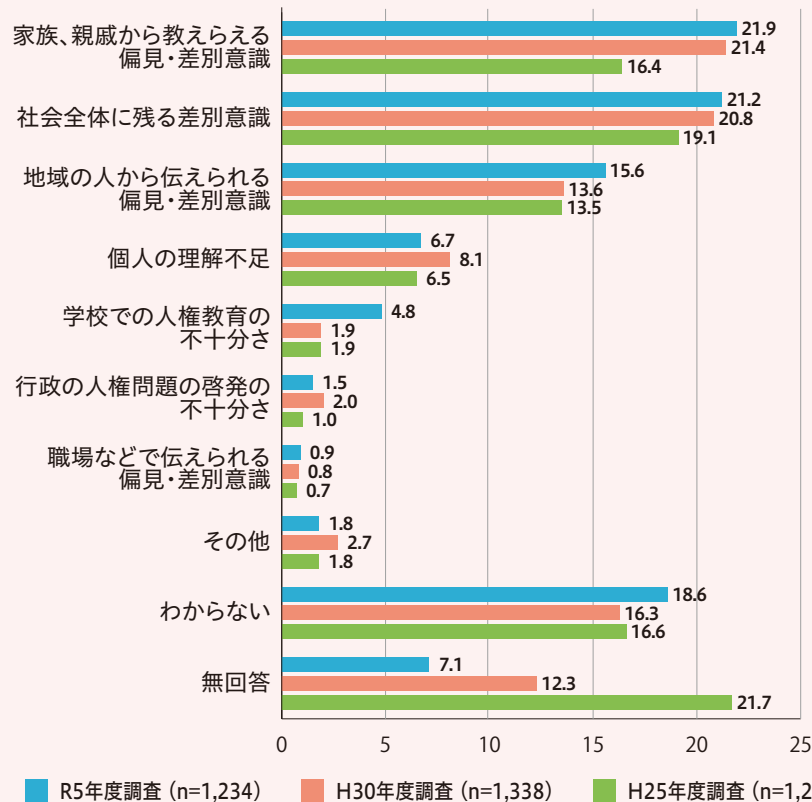
過去に、行政書士や司法書士等による全国規模の戸籍謄本等不正取得事件がありました。**身元調査は、結婚・就職差別につながる行為で、厳正な対応が必要です**。また、同和地区の所在地を自治体等へ問い合わせる行為はいまだにあり、このことは偏見や差

別意識が根強く残っていることの現れです。さらに、同和問題を口実に高額な書籍を売りつけたり、寄付金を強要したりするなどの「えせ同和行為」も依然として発生しており、不当な要求には毅然とした態度をとることが必要です。

R5人権に関する県民意識調査結果の抜粋

R5人権に関する県民意識調査結果から兵庫県と（公財）兵庫県人権啓発協会が令和5年度に実施した「人権に関する県民意識調査結果」の一部をご紹介します。

部落差別（同和問題）が生じる原因や背景として、あなたが一番思い当たるのは次のどれですか。



部落差別（同和問題）が生じる原因や背景をみると「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）、親戚から伝えられる偏見・差別意識」が21.9%で最も高く、次いで「社会全体に残る差別意識」(21.2%)、「わからない」(18.6%)、「地域の人から伝えられる偏見・差別意識」(15.6%)の順となっています。H25年度、H30年度調査ともに上位3項目の順位に変動はあるものの、大きな差はありません。

「人権が尊重され 一人一人が大切にされる 心豊かなまち」をめざして

三木市の取組

三木市は、市民と行政が協働して豊かなまちづくりを推進しています。



市内小・中・特別支援学校の児童生徒制作 人権啓発ポスター



市民じんけんの集いの様子

1 三木市人権尊重のまちづくり条例

三木市では、同和対策事業に関する法律が失効する以前に「人権尊重のまちづくり条例」を制定し、現在に至るまで、部落差別の解消に向けた取組を途切れることなく続けてきました。また、この条例のもとで、同和問題をはじめ、女性や子ども、高齢者、障がいのある方、在日外国人などマイノリティの方の人権に関する問題など、さまざまな人権課題に向き合いながら、すべての人の人権が尊重される社会の実現をめざしています。

2 三木市人権尊重のまちづくり 基本計画(第4次)の策定

本市では、三木市人権尊重のまちづくり条例に基づき、依然として存在するさまざまな人権課題及び新しく顕在化した課題の解消を図り、人権尊重の意識向上をより積極的に推進しています。この度、法制度や社会情勢の変化などをふまえて従前の基本計画を改定し、令和7年3月、新たな「三木市人権尊重のまちづくり基本計画(第4次)」を策定しました。それに則って、市民と行政が互いに手を取り合いながら、人権が尊重される明るく住みよいまちづくりを推進しています。

3 官民一体の取組

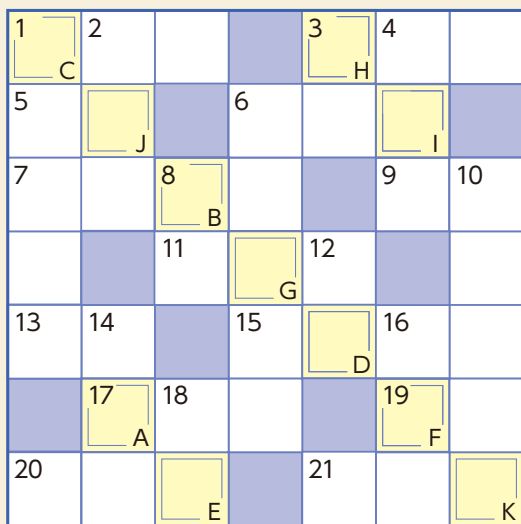
市民と行政が協働し、市民の人権意識の高揚をめざして人権教育及び人権啓発を下記の通り年間を通じて実施しています。

- ① 毎年8月を人権尊重のまちづくり推進強調月間とし、「市民じんけんの集い」を開催。市内小・中・特別支援学校の児童生徒や市民から募集した人権啓発ポスター・作文・標語の優秀作品の表彰・朗読や、人権講演会、バリアフリー映画会の上映などを実施。今年は、兵庫県との共催とし、「ひょうごヒューマンフェスティバル2026inみき」と題して、市民のみならず県民に対しても人権意識の高揚をめざすイベントとして開催予定。
- ② 毎年11月、三木市人権・同和教育協議会(三同教)が市内学校園や各種団体の実践発表・交流などを行う研究大会を開催。各地区公民館では「地区別人権研究大会」を開催。
- ③ 総合隣保館は「同和教育セミナー」「人権フォーラム」を開催。人権啓発紙「隣保館だより」を毎月発行。
- ④ 社会教育推進委員をはじめとした人権リーダーへの研修会を開催。そこで研修を受けた人権リーダーが主体的に各地区の住民学習を実施。

ふれあい サロン

クロスワードパズルに挑戦

アルファベットを順番に並べると、
何という言葉になるでしょう？



たてのカギ

- ① 風呂場。公衆_____
- ② 足し算のこと
- ③ 草などを刈るための農具
- ④ 最後にオチをつけて噺家が演じてくれます
- ⑥ 端午の節句に飾ります
- ⑧ お医者さんが手術等に使う刃物
- ⑩ 髪型を整えてくれるところ。ヘアサロン
- ⑫ 乙や丙よりも上
- ⑭ 山の奥深く。「深山」と書く
- ⑯ 赤くてみずみずしい夏野菜
- ⑰ 道具や武器を何も持っていない状態



よこのカギ

- ① 夜に吹いてくる風
- ③ 英語で「色」のこと
- ⑤ 堅い幹を持たない植物
- ⑥ 耳の中にあり、音が届くと振動します
- ⑦ 人の名前
- ⑨ 言葉の最後の部分
- ⑪ 風呂場などに敷く木や竹でできた敷物
- ⑬ 日本の周りを囲んでいます
- ⑮ 文章などの最初の部分
- ⑰ 金属の表面などを平らにするための工具
- ⑲ 紙や皿などを数える単位
- ⑳ 潮干狩りで貝を採るのに使う道具
- ㉑ リレーで走者から次の走者に渡されます



5・6月号の答え

オウエンシヨウコソダテ

クロスワード & 投稿で

P10記事掲載
三木市提供

パタパタメモ帳を
プレゼント！

三木市は、羽柴(後の豊臣)秀吉の復興策により商工業が発展した金物のまちであり、酒米「山田錦」の生産量・品質が日本一です。広大な自然を生かしたゴルフ場も多数立地しています。

読者からのお便り 5・6月号を読んで

子どもの心の声に耳を澄ますこと、子どもを否定せずそのままの存在を受け入れること、子どもの生きづらさを想像し共感すること、そんな人権文化が根付くふるさとをつくっていききたいものです。(加西市 ウサギかもさん)

夫の転勤につき添い、東京から兵庫県に引っ越してきました。友人や知り合いもおらず、ストレスを感じる日々でしたが、今回、本誌を読んで、内容に共感を得ると同時に気持ちが少し楽になった気がしました。今後も楽しみにしております。

(神戸市 Oさん)

「読者からのお便り」の投稿掲載者(令和8年9・10月号)とクロスワードの正解者(抽選で10名様)とに、「パタパタメモ帳」をプレゼント。本誌「きずな」へのご意見やご感想、人と人とのふれあいを通した心温まるエピソードなどを募集しています。どしどしご投稿、ご応募ください。

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。
※投稿掲載時はペンネームの使用も可能です。

応募方法

はがき、FAX、Eメール、HPの「きずな投稿」で受け付け。クロスワードの答え、郵便番号・住所、名前(ペンネームを使用の場合も要併記)、電話番号、年齢、職業、本誌へのご意見・ご感想を明記の上、ご応募ください。

応募先

〒650-0003 神戸市中央区山本通4丁目22番15号 県立のじぎく会館内(公財)兵庫県人権啓発協会 「きずな」ふれあいサロン係
TEL:078(242)5355/FAX:078(242)5360
Eメール:info@hyogo-jinken.or.jp

*応募者および投稿者の個人情報は管理を適切に行い、誌面づくり以外の目的には利用いたしません。

締め切り

令和8年8月14日(金) 必着

遊びながら「やさしい社会」を学びたいあなたに

□ 「人権文化をすすめる県民運動(推進強調月間8月1日～31日)」

ひょうご・ヒューマンフェスティバル2026

in みき 同時開催 市民じんけんの集い

日時 8月8日(土)
13:00～16:00(開場12:30)

会場 三木市文化会館(三木市福井1937)、
三木市立教育センター(三木市福井1933-12)

内容 (司会) 県立三木高等学校放送部

・オープニングアクト

・県立三木総合高等学校兼三木東高等学校
アコースティックギター・軽音楽部の演奏

・人権フォーラム

・大島花子 シンガー・ソングライター
演題「うつくしい命」
家族の絆～上を向いて歩こう～
・小林祐梨子 ひょうご人権大使との対談

・三同教バリアフリー映画会、 人権活動PRコーナー 等

・人権ユニバーサル事業 ・パラスポーツ体験

・多文化共生を考えるイベント

・子ども多文化共生教育フォーラム
・子ども多文化共生体験イベント

問い合わせ先

(公財)兵庫県人権啓発協会

☎078-242-5355

※ 災害など不測の事態が発生した場合は、
内容を変更・中止することがあります。



先着2,000名に「阪神タイガース
オリジナルクリアホルダー」をプレゼント!

思いやりの輪を広げよう

□ 阪神タイガースも“人権文化をすすめる
県民運動”を応援しています!



©阪神タイガース

兵庫県人権啓発協会の

ホームページ、SNSでも情報発信中!



HP



X



Instagram

編集・発行/問い合わせ 兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会

心配ごとでつらい思いをしているあなたに

□ 兵庫県 いのちと心のサポートダイヤル

兵庫県では、相談機関の少ない夜間や休日に、自殺を考える
ほどつらい悩みを抱える人やその家族が相談できる電話相
談窓口として「兵庫県のいのちと心のサポートダイヤル」を開設
しています。

電話番号 078-382-3566

相談日 月～金曜18:00～翌8:30 土曜・日曜・祝日は24時間

対応 精神保健福祉士・臨床心理士等

「兵庫県のいのちと心のサポートダイヤル LINE電話相談」の概要

開設時間 毎日18時から21時30分まで

LINE電話による電話相談のみです。トークによる相談は
行っていません。

対象 兵庫県内に在住、在学、在勤の方

登録方法 LINEのID
@nyl0284n
(アットエヌワイエルゼロ284エヌ)



友だち
登録は
こちら

人権問題の理解を深めてみたいあなたに

□ 第73回 兵庫県人権教育研究大会
中央大会 開催要項

大会テーマ

「差別の現実から深く学び、生活を高め、
未来を保障する教育を確立しよう!」

- ・さまざまな人権問題を正しく認識し、部落差別をはじめ
あらゆる差別を解消する教育内容を創造しよう
- ・くらしをみつめ、くらしを高める人権文化を創造しよう
- ・差別をなくす生き方を自らの課題にしよう

期日 9月26日(土)

会場 [全体会・分科会] 南あわじ市文化体育館 元気の森ホール
[分科会] 南あわじ市立南淡中学校
南あわじ市潮美台地区公民館

参加資料代 2,000円

日程 (予定)	9:15～ 9:40	9:40～ 9:55	10:05～ 10:40	10:45～ 11:45	11:55～ 13:10	13:15～ 16:00
受付	アトラ クション	全体会 (開会行事)	シンポジウム (特別報告)	昼食	分科会	

自分らしく生きるヒントを見つけたあなたへ

□ 兵庫県人権啓発協会が
公式「note」を開設しました



「きずな」の記事をきっかけに、人権意識が
さらに広がるように、noteを始めました。
一緒に、誰もが生きやすい「やさしい社
会」について考えてみませんか?



閲覧は
こちら

今月の表紙

何気なく押した「いいね」や、軽い気持ちの「シェア」。それらが
誰かを深く傷つける凶器になるかもしれないと、想像したこと
はありますか? 拡散することも発信の1つの形です。誰もが発
信者になる現代だからこそ、一人ひとりの気づきと想像力が、
人を守る力になります。

出典:法務省_令和7年における「人権侵犯事件」の状況について

〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじごく会館内
TEL 078-242-5355 FAX 078-242-5360 info@hyogo-jinken.or.jp

今
知
り
た
い
!
を
お
届
け
!

情
報
ぷ
ら
ざ